

シンポジウム2

2日目 10月21日(金) 8:50 ~ 11:00

第1会場(福井フェニックス・プラザ 1F 大ホール)

未曾有の災害救援活動 赤十字が担った役割

座長 石川 清(名古屋第二赤十字病院 院長)

- S2-1 東日本大震災活動報告
石巻赤十字病院 医療社会事業部長、宮城県災害医療コーディネーター
石巻圏合同救護チーム統括 石井 正
- S2-2 岩手県における赤十字医療救護活動
盛岡赤十字病院 久保 直彦 他
- S2-3 災害医療コーディネートシステムを考える
新潟県中越沖地震と東日本大震災では何が違ったのか?
長岡赤十字病院 救命救急センター 内藤万砂文
- S2-4 日赤災害医療戦略を持ち合わせることの重要性
日赤初動救護班は各被災地にて自力で活動した
武蔵野赤十字病院 救命救急センター、日本赤十字社災害医療コーディネーター 勝見 敦
- S2-5 東日本大震災における日本赤十字社の救護活動の取り組みについて ~全体報告~
日本赤十字社 救護・福祉部 木村 尚文
- S2-6 東日本大震災における「石巻圏合同救護チーム」本部支援活動
~国際救援の経験を通して見えたもの~
名古屋第二赤十字病院 国際医療救援部 伊藤 明子

S2-1

東日本大震災活動報告

石巻赤十字病院 医療社会事業部長、宮城県災害医療コーディネーター、石巻圏合同救護チーム統括

いしい 石井 ただし 正

石巻医療圏（石巻市、東松島市、女川町）における東日本大震災発災後、当院は、この地域で唯一の災害拠点病院であり被災を免れたため、震災後の救急患者は当院に集中した。

発災翌日より救護チームが当院に参集した。当初、情報不足から散発的に近くの避難所や孤立した地域へ救護チームを自衛隊などの要請により派遣していたが、津波により旧石巻市の南半分、女川町、北上町、雄勝町、牡鹿町は壊滅し、避難所がおよそ300か所あることがわかり、未曾有の大災害であると判断した。これでは救護活動が個別におこなわれると非効率的であると考え、宮城県・石巻市・東松島市・女川町・医師会・歯科医師会・東北大学などの関係各機関と調整し、3/20に日赤救護班、各大学病院、県立病院、医師会、歯科医師会、DMATチームなどのすべての救護チームを一元的に統括する「石巻圏合同救護チーム」を立ち上げた。合同救護チームとして活動した救護チームは1日最大72チーム（医師数114名）で、5/30までに延べ2989チームが活動した。うち日赤救護班は延べ958班であった。全国の赤十字病院からの院内医療支援は、5/30までに延べ2663名（医師382名、看護師/助産師1754名、薬剤師409名、臨床工学技士118名）で、合同救護チーム本部事務支援も、本社をはじめ各支部や赤十字病院より延べ888名に上った。当院が赤十字病院であったからこそ、これだけの支援を受けることができ今回の大災害へ組織的有機的に対応出来たと考える。